

## 親御さんの「声かけ」は子どもの脳に大きく影響する

### ■ お子さんの「苦手」に関係する「脳の7つの機能」が解明されてきました

お子さんにとって「摩擦」が生じにくい環境を模索すると同時に、どうしても生じてしまう「摩擦」⇨「困りごと」に対し、ある程度適応できる力を、幼いうちから身につけておくことも、無意味ではありません。ただし、このときに大切なのは、「困りごとを克服させる」のではなく、「得意なことを伸ばしていく」方向に導くことです。そのために役に立つのが、PART4で紹介する「声かけ変換」です。親御さんの声かけは、良くも悪くもお子さんの脳に大きな影響を及ぼします。

先にも説明しましたが、発達障害の診断は、「脳の中で起きていること」を正確に把握したうえで行なわれているではありません。しかし近年、脳科学の目覚ましい進展によって、発達特性があるお子さんが「苦手なこと」には、「脳の中で起きていることが想像できる7つの機能」が関わっていることがわかってきました。

### ■ 脳機能マッピングで「見える化」すると「苦手」とその「対応」も見えてきます

「脳の中で起きていることが想像できる7つの機能」は、「脳機能マッピング」(脳の各部位やネットワークの働きを示したもの)で「見える化」ができます。

脳機能マッピングとは、脳のどの部分がどのような役割を果たしているかを調べるための手法で、いわば脳の中の「地図」をつくり、そこで何が起きているのかを理解しようとするものです。私たちが感じたり考えたりするときどの部分が活動しているのかを知り、脳の機能を理解するのに役立ちます。

脳機能マッピングの考え方を利用し、発達特性があるお子さんの「苦手」を見直すと、専門家でなくても脳の中で起きていることが想像でき、お子さんの苦手を理解しやすくなります。脳の中で起きていることが想像できる7つの機能を理解すると、適切な「声かけ」や「関わり」が、お子さんにとって好ましい影響を与えることの納得感が、ぐんと高まるはずですよ。

次のPART2では、お子さんの「困り感(⇨苦手)」や「困った行動」が生じる因果関係を、脳機能マッピングを援用した脳科学の観点から説明していきます。